# H24はがきアンケート調査結果
## （市外転出、市内転入、市内間転居）

平成26年12月19日

尼崎市政策部まちづくり企画・調査担当

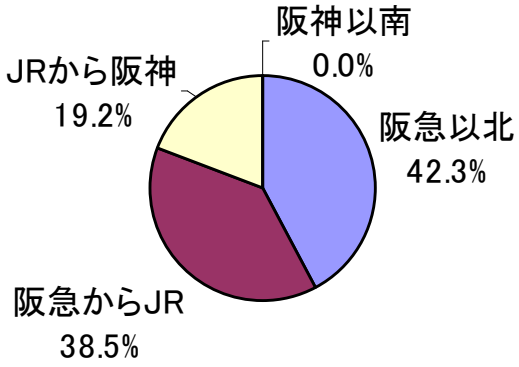
# 調査概要

- 目的
  - 住民基本台帳等から平成24年の1年間に転入・転出者等に関する異動データを把握している。今回はそれらデータでは把握できない事項（住宅の所有関係、意向等）について、簡易なアンケートを実施し、その傾向を見るもの。
- 対象
  - 平成24年1～12月に転出、転入したファミリー世帯（中学生以下の子どもがいる世帯）を無作為抽出により選出。
- 実施手法
  - 往復はがきによるアンケート調査
- （市外）転出者アンケート
  - 発送数　300通・実施日　平成25年11月8日～・回収率　35.0%（105通）
- （市内）転入者アンケート
  - 発送数　300通・実施日　平成25年11月22日～12月6日・回収率　26.0%（78通）
- （市内間）転居者アンケート
  - 発送数　300通・実施日　平成26年2月26日～・回収率　15.3%（46通）

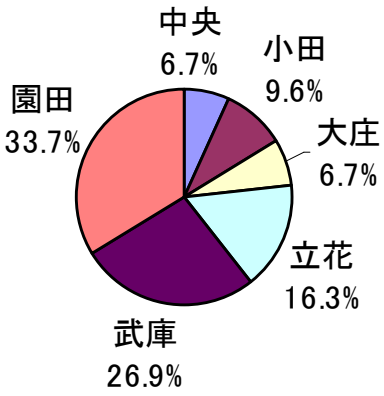
# 出 回答者の属性① 前居住地

- 回答者の前居住地の分布は、阪急以北が4割、阪急からJRが4割、JRから阪神が2割。
- 6地区では園田が3割と最も多く、武庫1/4強、立花1/8、小田1/10、中央・大庄1/15と続く。

尼崎での居住地（4区分）



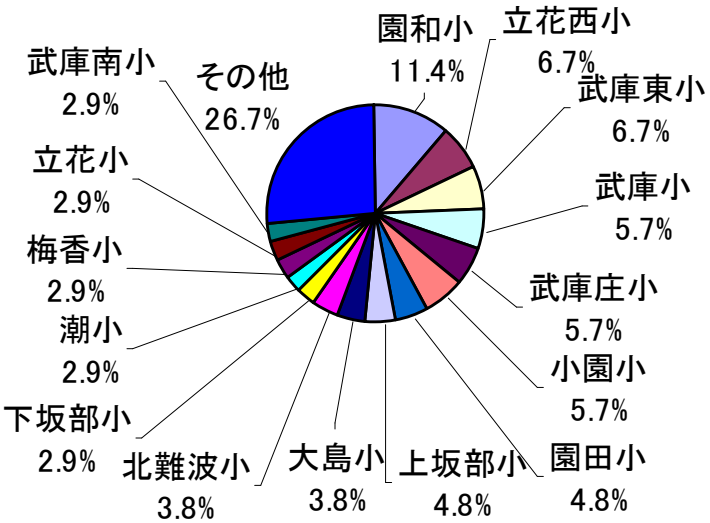

尼崎での居住地（6区分）



# 出 回答者の属性①-2　前居住地（小学校区）

- 小学校区別では全43校中32校から転出している。
- 小学校別に見ると園和小が突出しており（12件）、立花西・武庫東小（7件）、武庫・武庫庄・小園小（6件）と続く。
- 武庫小は転出先6件中5件が西宮、伊丹、宝塚、三田といった近隣市であるが、武庫東小では7件中5件が、武庫南小では3件中3件が静岡県以東への転居であった。

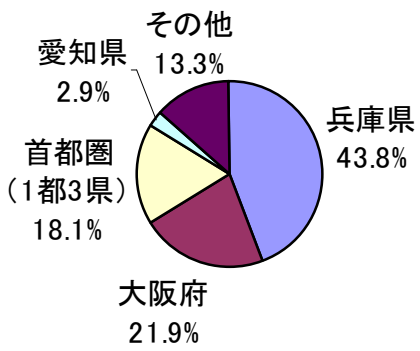
尼崎での居住地（小学校区３件以上）



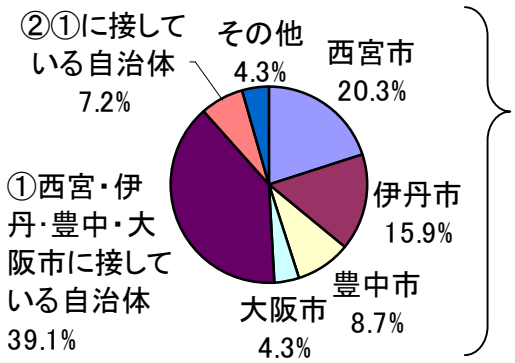
# 出 回答者の属性② 現住所（転出先）

- 回答者の転出先は、都道府県別に、兵庫県（46件）、大阪府、（23件）、首都圏（東京都（6件）を含む3県）と続く。
- 兵庫県、大阪府下市町に限定すると（右グラフ）、隣接自治体が約半数、これらに接する市が4割弱と続く。

現住所（都道府県）




現住所（兵庫県・大阪府下のみ）




本市に接している自治体計
49.3%

人口に占める割合（百万分率）

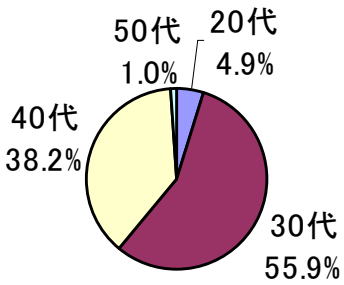
| | |
|---|---|
| 西宮市 | 68.37ppm |
| 伊丹市 | 140.75ppm |
| 豊中市 | 35.40ppm |
| 大阪市 | 2.23ppm |

近隣で動いている世帯が多い

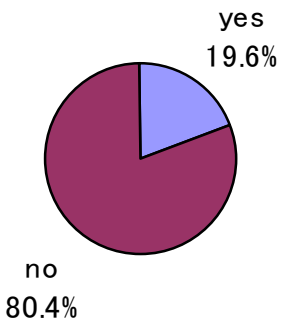
# 出 回答者の属性③　年齢、親の居住

- 回答者の年齢（平成25年4月現在）は30～40代が中心。
- 市内に回答者もしくは配偶者の親が住んでいる率は2割程度。

回答者の年齢



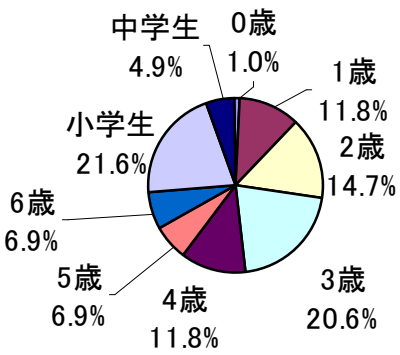

尼崎市内に世帯主もしくは配偶者の親が居住しているか



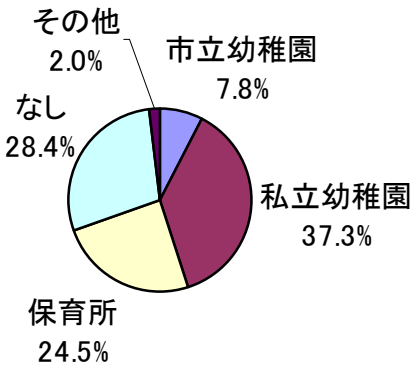
# 出 回答者の属性④　第1子年齢、通園先

- 回答者の第1子の年齢は未就学児が7割を超え、3歳児が最も多い。
- 第1子の通園先は幼稚園が約半数、保育所が約1/4。

第１子年齢（H25.4.2現在）




第１子の尼崎市内での通園先

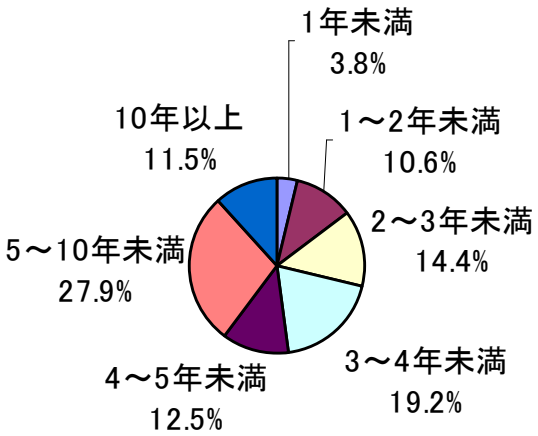



就学前の家庭が多い。共働き家庭は1/4。

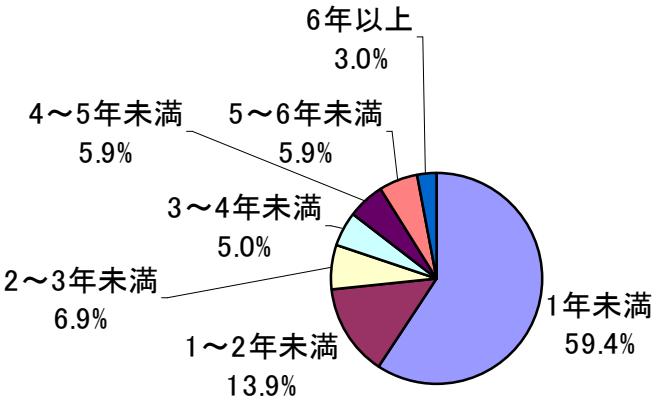
# 出 回答者の属性⑤ 居住年数、通園歴

- 回答者の「家族をもってからの」尼崎市での居住年数は5年未満が6割を超える。
- 保育所、幼稚園の通園歴は1年未満が約6割。

家族をもってからの尼崎市での居住年数（通算）




尼崎市での保育所・幼稚園通園歴

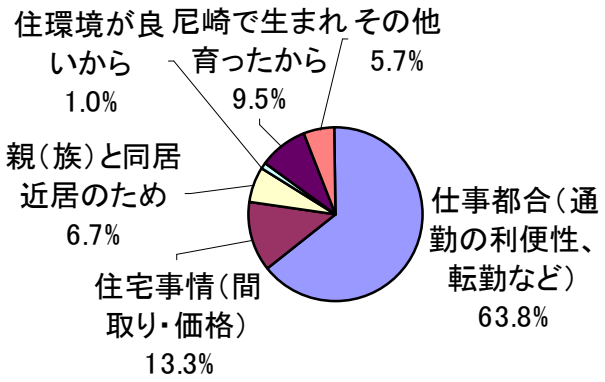



居住年数は5年未満が過半数と短い

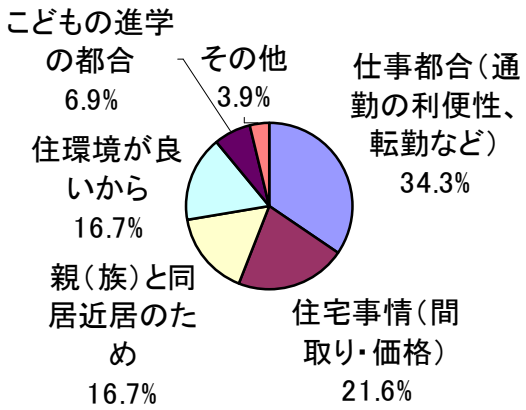
# 出 尼崎に住んだ理由、転出の理由

- 尼崎市に居住した理由、転居の最大の理由ともに「仕事の都合」がもっとも多く、続いて住宅事情（間取り・価格）、親族との同居・近居が続く。

尼崎市に住まわれた最大の理由




転居の最大の理由

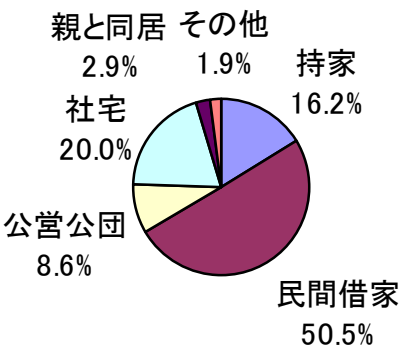



「仕事の都合」で本市に転入し、同じく「仕事の都合」か、住宅・住環境のニーズにあわずに転出、もしくは親族と同居・近居のため転出している。

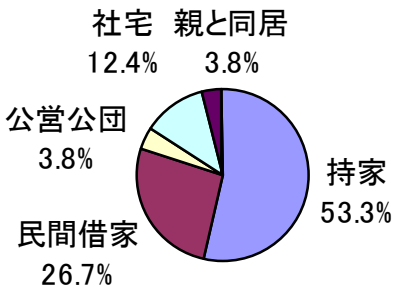
# 出 住宅の所有形態（従前・従後）

- 尼崎市在住時は民間借家が過半数を超えているが、転出後は持家率が過半数を超えている。

尼崎市での住居の所有形態




転居後の住居の所有形態

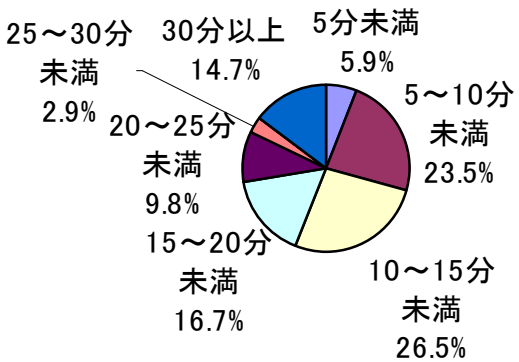



転出をきっかけに持家を取得している。

# 出 最寄り駅までの距離（転出後）

- 転出後は最寄り駅から徒歩で15分未満（徒歩で約1km）の距離に居住している者が半数を超える

転居先では最寄駅から徒歩で何分かかるか

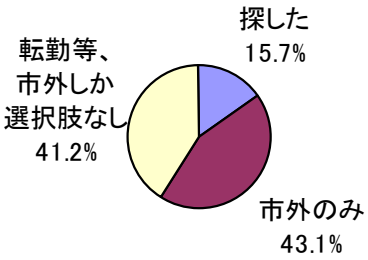



住宅を選択する際、駅から1km内の住宅が選ばれている。

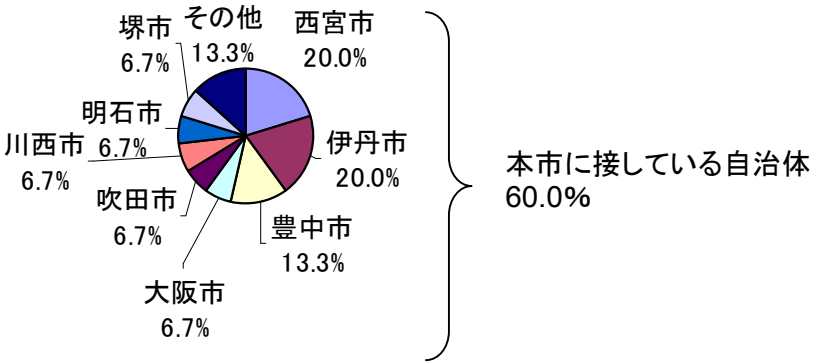
# 出 市内で住宅を探したか/探した世帯の居住地

- 転出時に尼崎市内でも住宅を探したのは1/6。市外転居しか選択肢のないものも4割程度いる。
- 市内でも住宅を探した世帯（15世帯）のうち、現在の居住地は西宮・伊丹・豊中・大阪市の隣接地が過半数。

転居の際、尼崎市内でも住宅を探したか



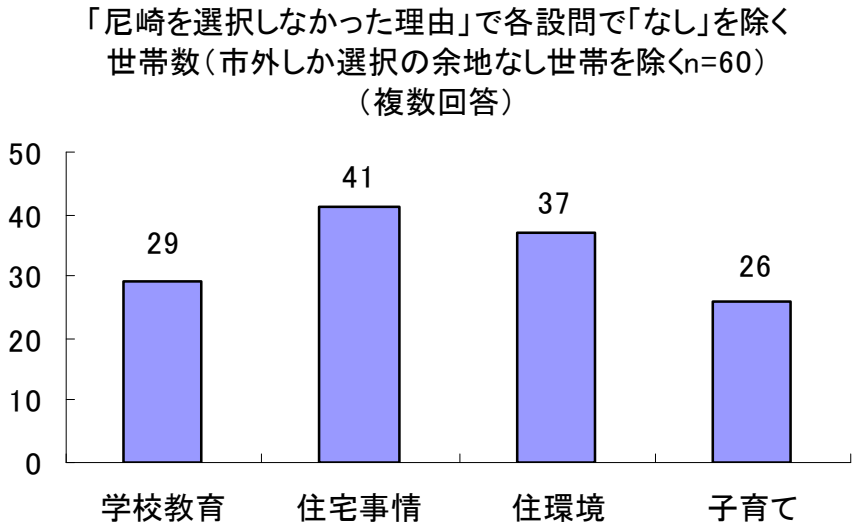

尼崎市でも住宅を探した世帯の転出先
（「探した」と回答した15世帯中）




市内も探した世帯、市外のみで探した世帯の理由を分析する。

# 出 尼崎市を選択しなかった理由

- 選択しなかった理由は、住宅事情、住環境と続く。
- 学校教育、子育ては母数の半数以下であった。

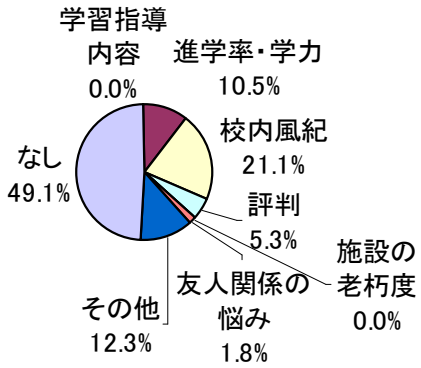



住宅事情、住環境が転出の大きな要因と考えられる。

# 出 尼崎を選択しなかった理由として「学校教育」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 尼崎を選択しなかった理由「なし」が約半数で最多。校内風紀、進学率・学力が続く。
- 「施設の老朽度」、「学習指導内容」を理由にあげた者はいなかった。

尼崎を選択しなかった具体的理由（学校教育）
（市外しか選択の余地なし世帯を除くn=57）



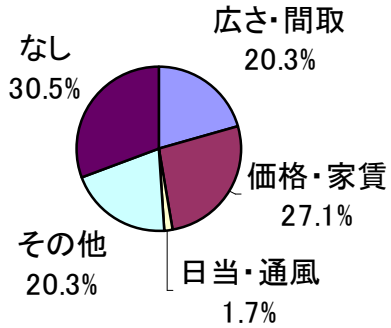

回答者の半数が0-3歳児であったことが、「なし」という回答が多かった原因ではないか。

（低年齢児の保護者は目の前の子育てで手がいっぱいで先のことなど考えられないという声を聞いた経験から）

# 出 尼崎を選択しなかった理由として「住宅事情」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 尼崎を選択しなかった理由「なし」が3割強で最多。「価格・家賃」が約3割弱、「広さ・間取り」・「その他」が約2割と続く。

尼崎を選択しなかった具体的理由（住宅事情）
（市外しか選択の余地なし世帯を除くn=59）

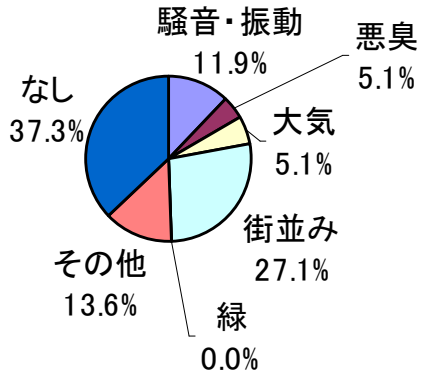



子どもの成長に応じて新たな住宅需要を求める理由が多かったと思われる。その他の理由を探る必要がある

# 出 尼崎を選択しなかった理由として「住環境」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 尼崎を選択しなかった理由「なし」が4割弱で最多。「街並み」が約3割、「その他」・「騒音・振動」が約1割で続く。
- 「緑」を理由とした世帯はなかった。

尼崎を選択しなかった具体的理由（住環境）
（市外しか選択の余地なし世帯を除くn=59）

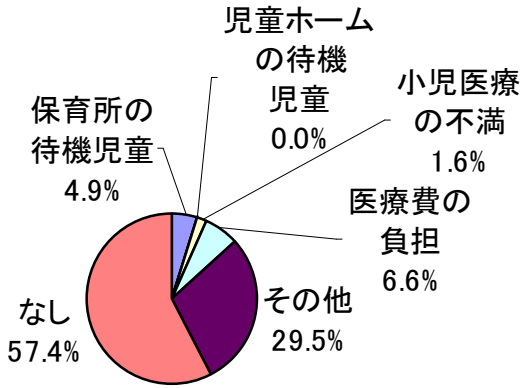



地区別に住環境を理由とされた根拠を探る。

# 出 尼崎を選択しなかった理由として「子育て」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 尼崎を選択しなかった理由「なし」が6割弱で最多。「その他」、「医療費の負担」、「保育所の待機児童」が続く。「児童ホームの待機児童」はいなかった。

尼崎を選択しなかった具体的理由（子育て）
（市外しか選択の余地なし世帯を除くn=61）




現在の「子育て」施策では、転出者を引き止める要素になりえていない。

未就学児にとって児童ホームの待機児童は大きな問題ではなかった。その他の理由を探る必要がある

# 出 単純集計の分析結果

- 就学前、特に幼稚園入園前後の転出が顕著
- 家族をもってからの居住年数が5年未満

- 子育てにやさしいまちではないのか？

▷ 関心がずれているのか、周知が足りないのか

▶ 周知の面では3歳児に配布する広報誌戦略

- 仕事の都合で本市に転入し、①住宅・住環境のニーズに合わず、②仕事の都合で、③親族と同居近居のため転出している。
- 持家取得をきっかけに転出していることがわかる。
- 転居後は最寄り駅から1km以内の住宅が過半数を超える。

- ライフステージの欲求に応じて転出していく、通過都市。

▷ 持家取得の際に欲求を満たす住宅（住環境）が少ないのか、情報が少ないのか。

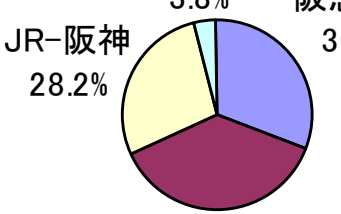
- 市内も探した、市外のみで探した世帯の理由を分析する必要がある。
- 住宅事情（家賃・間取）、住環境（街並み）が転居の要因か
- 未就学児が多いことから、学校教育に関して、「なし」という回答が多かったのか。
- 子どもの成長に応じて新たな住宅需要を求める理由が多かったと思われる。その他の理由を探る必要がある
- 地区別に住環境を理由とされた根拠を考える。
- 現在の「子育て」施策では市外転居を引き止める要素になりえていない。

- 市内でも探した者、次に市外のみで探した者の理由を分析する。
- 地区別に住宅事情、住環境を理由とされた根拠を考える。
- その他の理由を探る

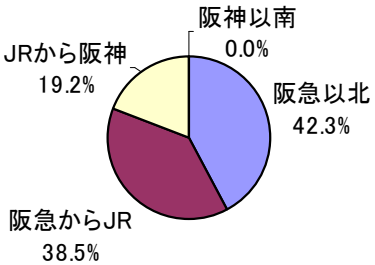
# 入 回答者の属性① 現居住地

- 回答者の居住地の分布は阪急以北が3割、阪急からJRが4割弱、JRから阪神も約3割、阪神以南も数%である。
- 地区別に見ると立花が約3割、小田が2割強、武庫が2割弱、続いて大庄が約1/7、中央が1/20であり、転出者の傾向と異なる

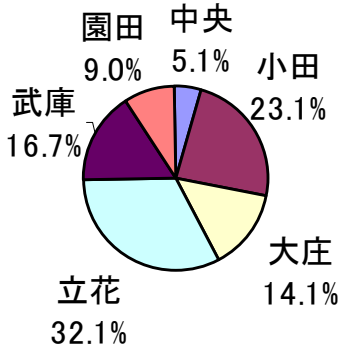
現住所（４区分）



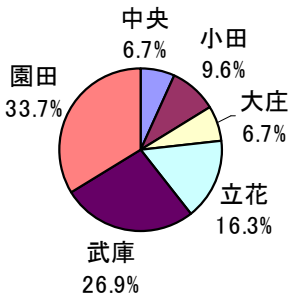

（参考）転出世帯
尼崎での居住地（４区分）




現住所（６区分）




（参考）転出世帯
尼崎での居住地（６区分）

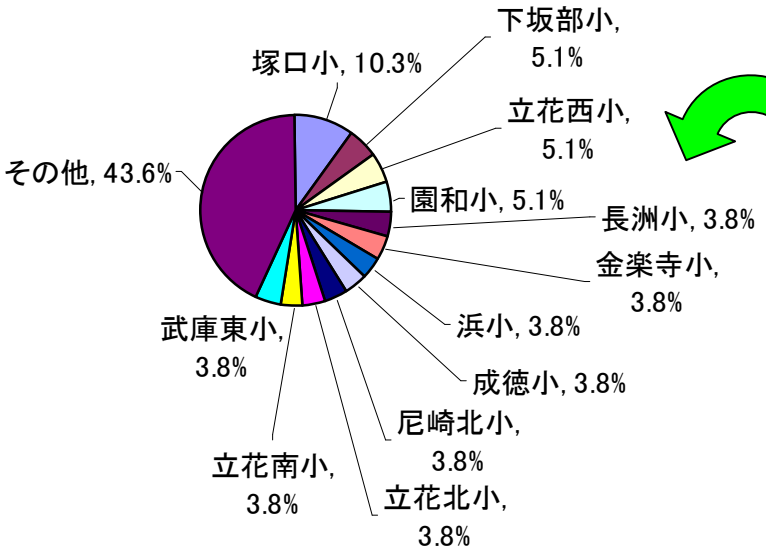



小田地区の転入が顕著なのはJR尼崎駅周辺の開発が理由と考えられる

# 入 回答者の属性② 現住所地（小学校区）と通勤先

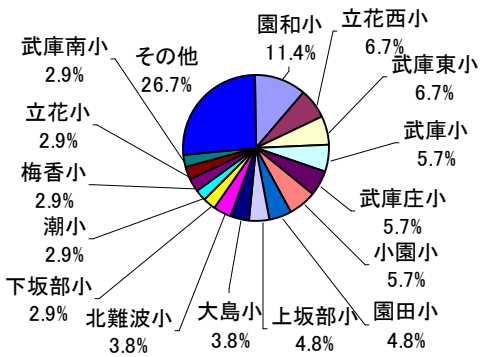
- 小学校区別では全43校中35校に転入している。
- 塚口小8件、下坂部小・立花西小・園和小がそれぞれ4件である他は転出世帯より一層偏りは見られない。
- 立花西、園和、武庫東小は転入、転出両方に名称があがっている。
- 通勤先は尼崎市内、大阪市がそれぞれ3割である。

現住所（小学校区３件以上）

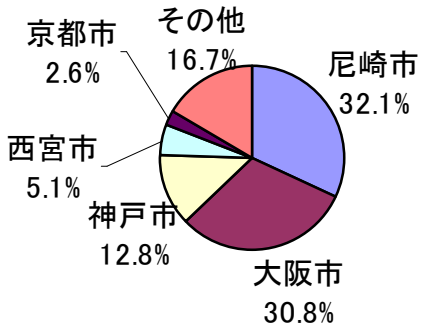



（参考）転出世帯

尼崎での居住地（小学校区３件以上）



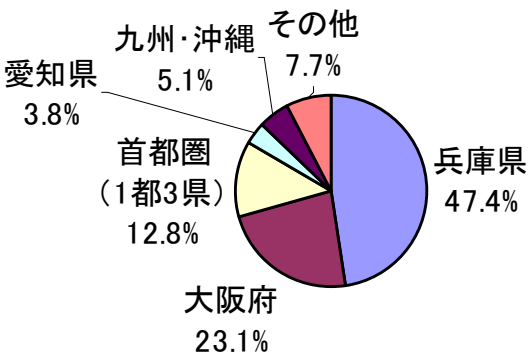

通勤先



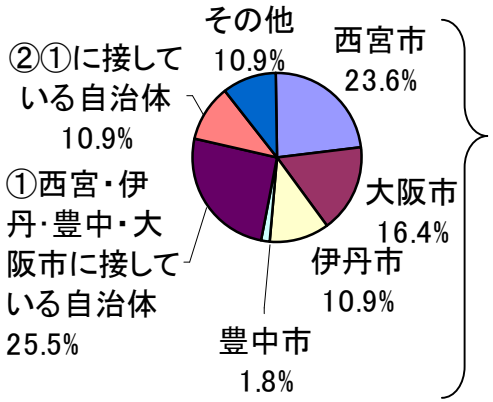
# 入 回答者の属性③ 前居住地

- 回答者の前居住地は、都道府県別に兵庫県（37件）、大阪府（18件）、神奈川県（4件）を含む首都圏1都3県と続く。
- 兵庫県、大阪府下市町に限定すると、本市に接する市の合計で半数を超える。またそれらに接する市からの転入が1/4ある。

前住所（都道府県）




前住所（兵庫県・大阪府下市町のみ）




本市に接している自治体計
52.7%

人口に占める割合（百万分率）

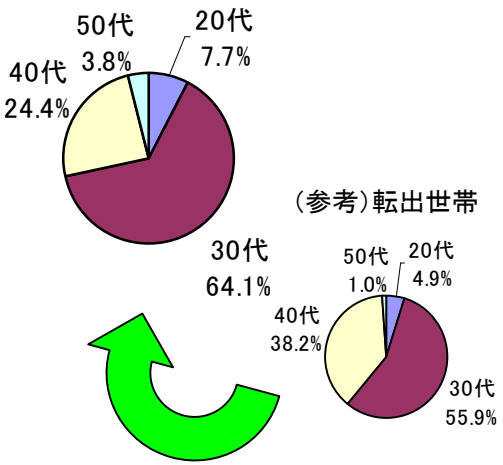
| | |
|---|---|
| 西宮市 | 26.78ppm |
| 大阪市 | 3.36ppm |
| 伊丹市 | 30.38ppm |
| 豊中市 | 2.55ppm |

近隣で動いている世帯が多い

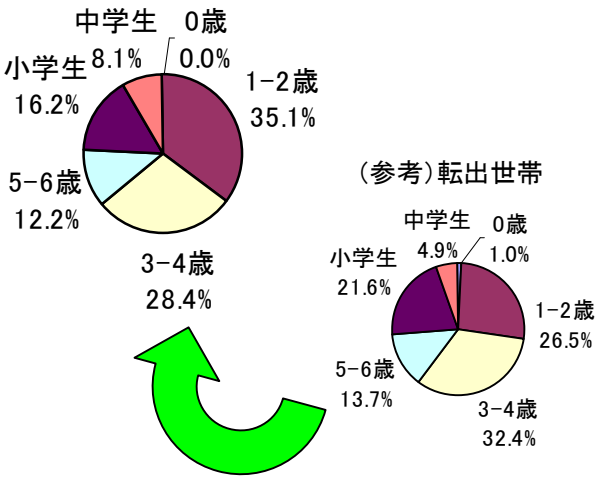
# 入 回答者の属性④　回答者、第1子の年齢

- 回答者の年齢は30～40代が88.5%。
- 第1子の年齢は未就学児が3/4を超え、1-4歳で約6割と転出世帯と大差無し。

回答者の年齢（H25.4.2現在）




第１子年齢（H25.4.2現在）

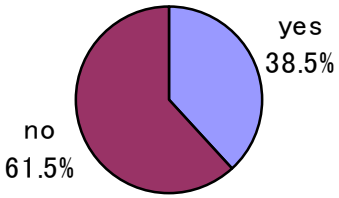



回答者は転出世帯と比較して若い年齢層が多い。
第1子は転出世帯と同様、就学前の転入が顕著

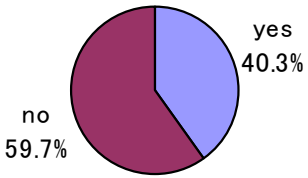
# 入 回答者の属性⑤ 居住歴、親の居住

- 回答者の4割弱が過去に尼崎市内に居住していた。
- 市内に世帯主もしくは配偶者の親が住んでいる率は約4割。

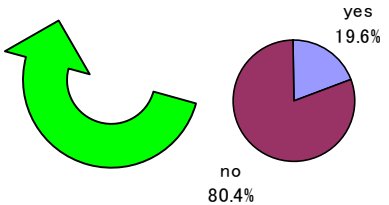
過去に尼崎市に居住していたか




尼崎市内に世帯主・配偶者の親が居住しているか




（参考）転出世帯

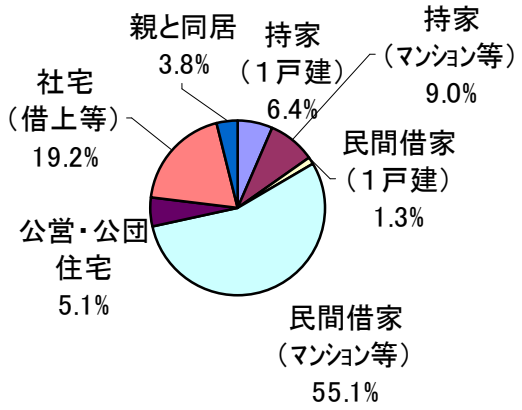



市内に親が住んでいる率は転出世帯の倍。

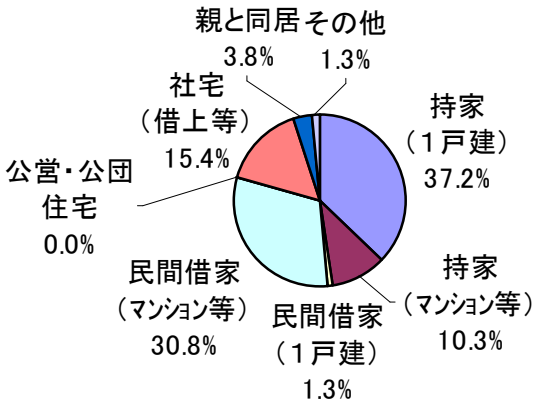
# 入 住宅の所有形態（従前・従後）

- 転入前は民間借家が過半数を超えているが、転入後は持家が約半数となっている。特に持家（1戸建）は約4倍に増加。

転入前の住宅の所有形態




現在の住宅の所有形態

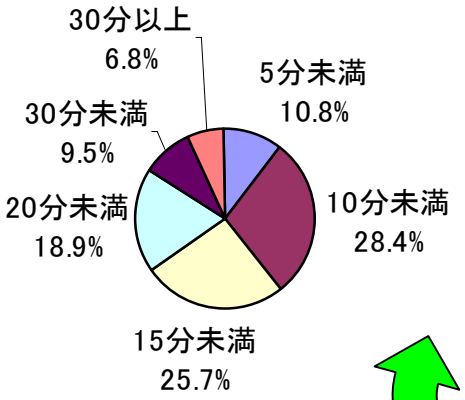



転出世帯と同様、持家取得が転入のきっかけになっている。
1戸建の持家取得が転入の要因になっていると考えられる。

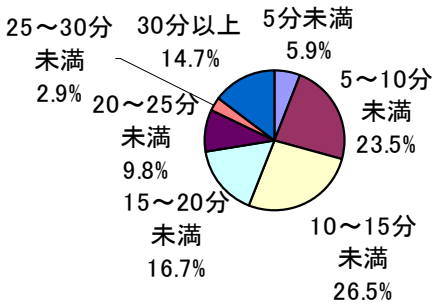
# 入 最寄り駅までの距離（転入後）

- 住宅から最寄駅までの距離は6割強が15分未満（徒歩で約1km）。

住宅から最寄駅まで徒歩時間




（参考）転出世帯

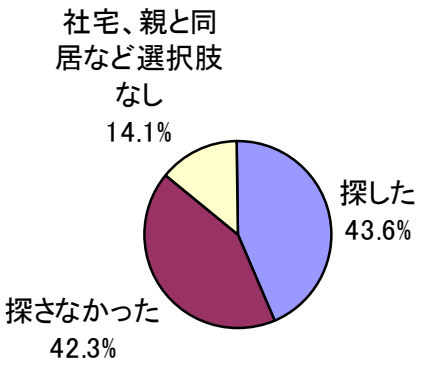



転出世帯と同様の傾向であるものの、より「駅に近い」結果が出ており、住宅地選択の大きな要素と考えられる。

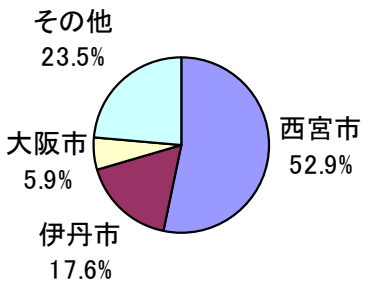
# 入 市外で住宅を探したか/探した世帯の居住地

- 尼崎市内のみ、また市外でも住宅を探した者がそれぞれ4割程度いる。選択肢がなかったものも1/7程度いる。
- 比較した都市は西宮市（18件）、伊丹市、大阪市と続く。

尼崎市以外の他都市でも住居を探したか




尼崎市以外で住居を探した市町村
（「探した」と回答した34件中）



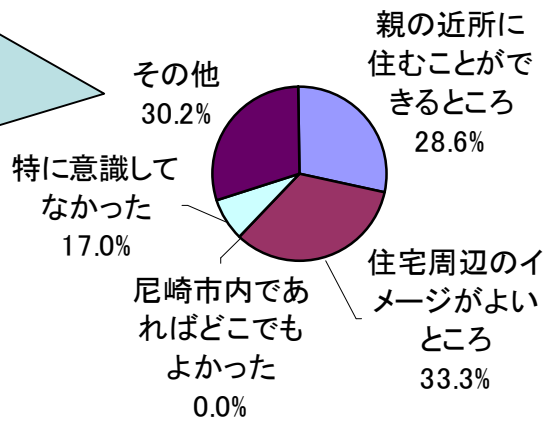

他市と比較して転入した43.6%と転出した15.7%（スライド11）の要因を分析する必要がある。

# 入 尼崎市内で住宅を探すのに重視したこと

- 「住宅周辺のイメージがいい」が最も多く、「親の近所」が続く。その他（自由回答欄）では、通勤や生活の利便性、家賃・価格に関する意見があった。

【その他の意見】
通勤・買い物
駅から近いこと、家の間取り
職場から近い所
将来的に西宮市で持家を購入しようと考えているので、価格と少しでも西宮の雰囲気に近いエリア
周囲にスーパーなどが多かったから
家賃・広さ・環境
価格
立地・JR沿線であること・物価の安さ
親戚がいたこと
尼崎はイメージ良くない為、あくまで家賃が安い仮住まいのつもりだった
オートロックマンション

尼崎で住まいを探すのに何を重視したか
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn＝63）

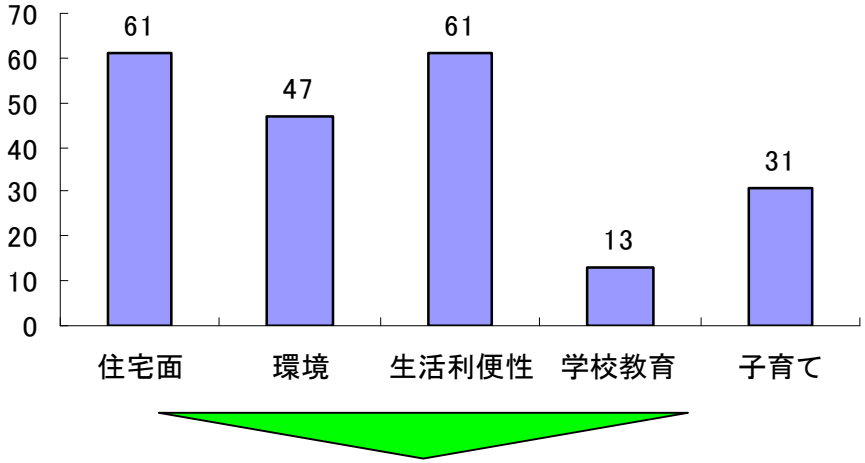



「市内であればどこでもいい」のではなく、住宅周辺のイメージや親の居住地、その他の中の利便性などを重要視している。

# 入 現在の住宅を選択した具体的理由

- 「住宅面」と「生活利便性」が突出。
- 子育ては約半数、学校教育は1/4程度。

「現在の住宅を選んだ具体的理由」で各設問で「なし」を
除く世帯数（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=67）
（複数回答）

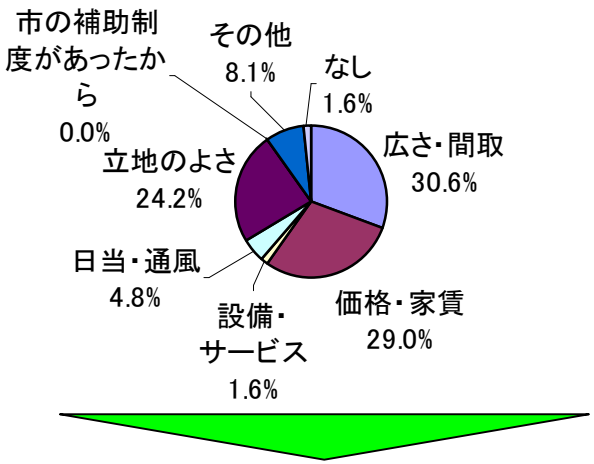



未就学児をもつ世帯が多いにも関わらず、「学校教育」「子育て」が住宅選択の理由に大きく貢献していない。

# 入 現在の住宅を選択した「住宅面」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 住宅面に関する具体的理由として、「広さ・間取」、「価格・家賃」をあげた者が約3割、続いて「立地のよさ」が1/4。
- 市の補助制度を理由にあげた者はいなかった。

現在の住宅を選んだ具体的理由（住宅面）
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=62）

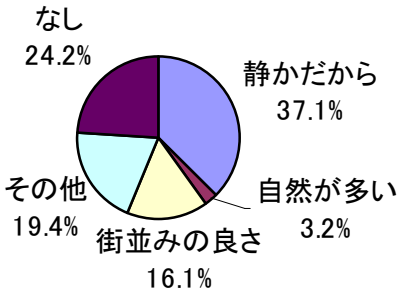



転出世帯アンケートでも「広さ・間取」、「価格・家賃」が転出の理由にあがっており、その理由を探る。

# 入 現在の住宅を選択した「環境」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 環境に関する具体的理由として、「静かだから」は4割弱と最多。続いて「なし」が1/4、「街並みのよさ」をあげた者が1/6いる。

現在の住宅を選んだ具体的理由（環境）
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=62）

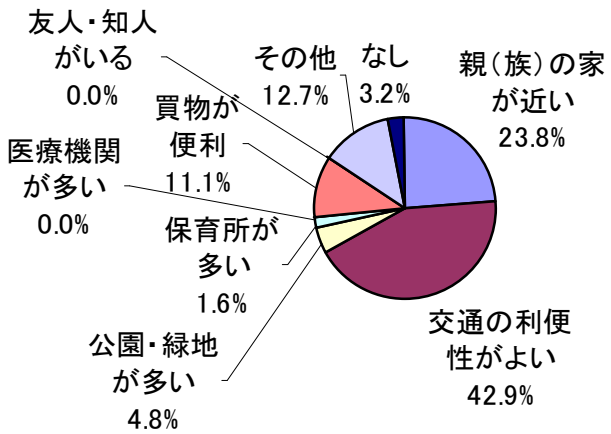



転出世帯アンケートでは「街並み」が転出の理由にあがっており、その理由を探る必要がある。

# 入 現在の住宅を選択した「生活利便性」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 生活利便性に関する具体的理由として、「交通の利便性」は4割強で最多。続いて「親（族）が近い」が2割、「買物が便利」と続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（生活利便性）
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=63）

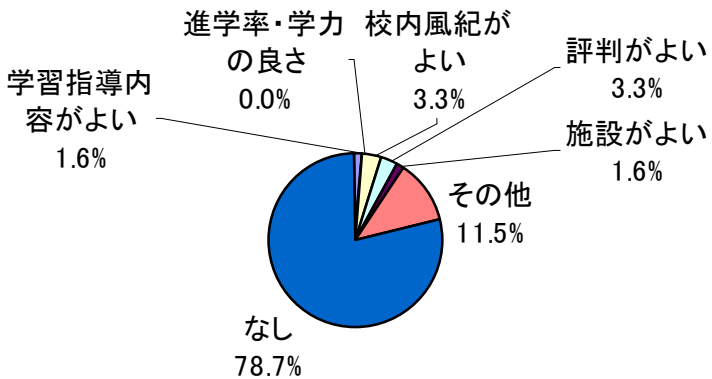



子育てにも関連する「医療機関が多い」、「保育所が多い」は少なかった。

# 入 現在の住宅を選択した「学校教育」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 学校教育に関する具体的理由として、「なし」が約8割で最多。

現在の住宅を選んだ具体的理由（学校教育）
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=61）

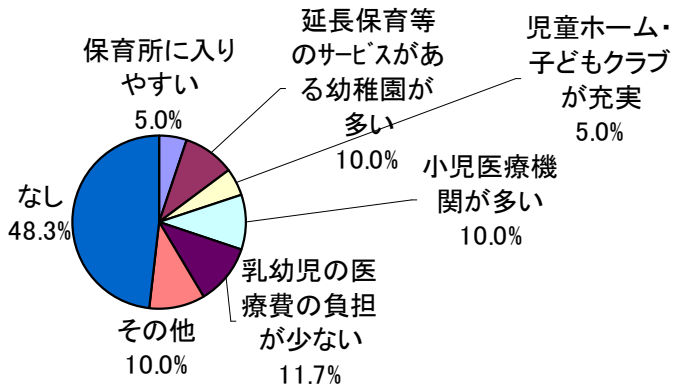



転入者にとって、学校教育は現在の住宅を選ぶ要因になりえていない。

# 入 現在の住宅を選択した「子育て」に関する具体的理由（回答は最大の理由を1つ選択）

- 子育てに関する具体的理由としては、「なし」が約5割で最多、続いて「乳幼児の医療負担が少ない」、「小児医療機関が多い」、「延長保育等のサービスがある幼稚園が多い」が1割で続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（子育て）
（市内しか選択の余地なし世帯を除くn=60）




未就学児が多いにも関わらず、転入者にとって、子育て施策は、現在の住宅を選ぶ要因となりえていない。

# 入 単純集計の分析結果

- 回答者は転出世帯と比較するとやや若い。転出世帯と同様、就学前の転入が顕著

▶「親（族）の家が近い」は転入の「尼崎で住宅を探す際に重視した」の項目にあがっており、居住地選択の要因となっている。

- 市内に親が住んでいる率は転出世帯の倍。
- 子育てにも関連する「医療機関が多い」、「保育所が多い」は少なかった。
- 未就学児が多いにも関わらず、「学校教育」「子育て」が本市転入の理由に大きく影響していないことがわかる。

- 保護者の求めに応じられていないのか、周知が足りないのか、他都市と比較して魅力がないのか。住宅の選択要素という設問がよくなかったのか

▶ 根拠を探る

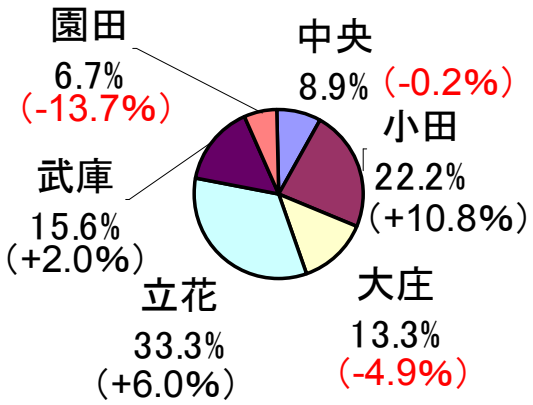
- 転入をきっかけに持家を取得している。この傾向は転出世帯の傾向と同様。
- 他都市と比較して転入した43.6%と他都市と比較して転出した15.7%の要因の違いを分析する。
- 市内であればどこでもいいものではなく、住宅周辺のイメージや親の居住地、駅近など立地を重要視していることがわかる。
- 転出世帯アンケートでも広さ・間取、価格・家賃が転出の理由にあがっており、その理由を探る。
- 転出世帯アンケートでも「街並み」が転出の理由にあがっており、その理由を探る必要がある。

- 持家世帯がどのような傾向を示しているか、詳細に分析する

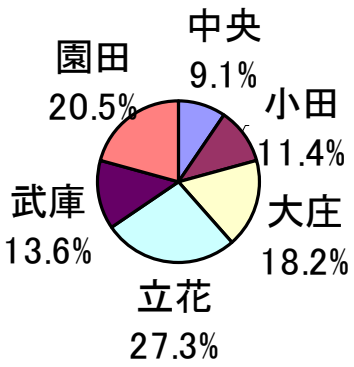
# 転居 回答者の属性① 居住地区

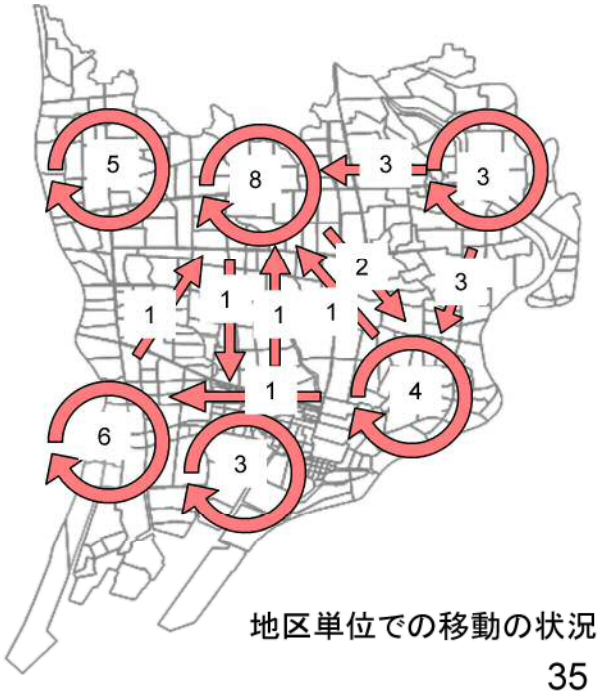
- 回答者の現居住地の分布は、６地区では立花地区が3割強と最も多く、小田、武庫、大庄、中央、園田と続く。
- 前住所の分布は立花地区が3割弱と最も多いのは同じだが、園田、大庄、小田・中央と続く。
- 地区内の転居が最も多いものの、6地区でみると園田の減少が大きい

現住所（６区分）n=45




前住所（６区分）n=44



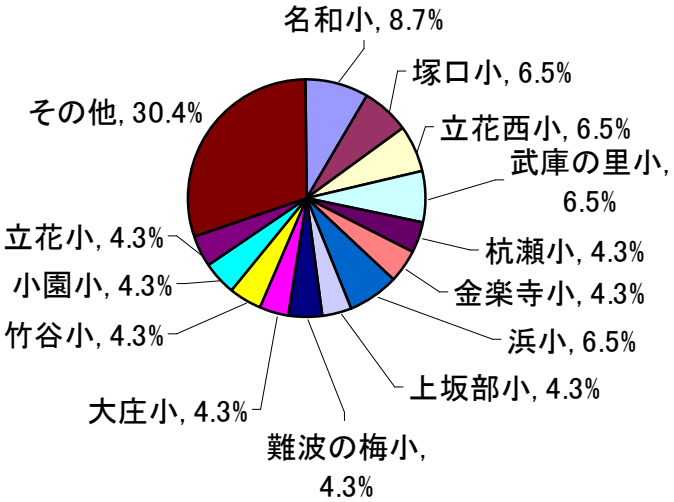




地区単位での移動の状況

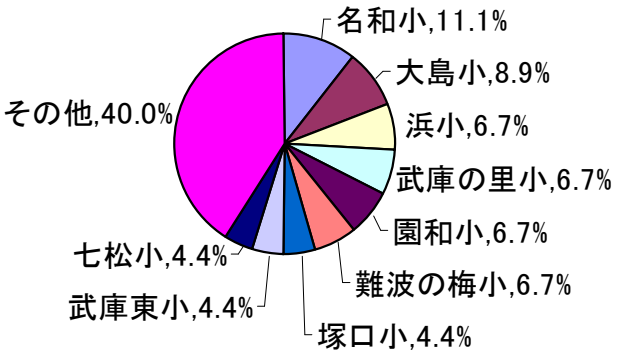
# 転居 回答者の属性② 小学校区

- 小学校区別では全43校中26校から転居しており、他校区への転居が6割を占めている。
- 転居前、転居後ともに名和小の割合が最も高いが、その他小学校区間での大きな偏りは見られない。

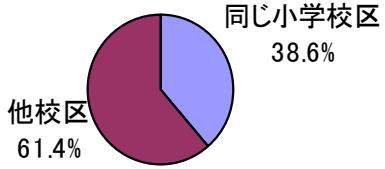
現住所（小学校区2件以上）n=45




前住所（小学校区）n=45

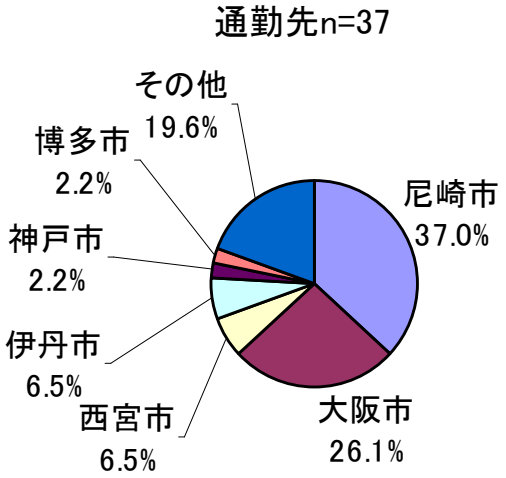



同じ小学校区で移動か否かn=44



# 転居 回答者の属性③ 通勤先

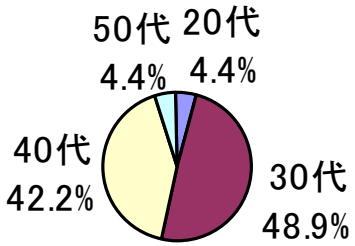
- 通勤先では、尼崎市が4割弱、隣接の大阪市、西宮市、伊丹市で4割を占めている。



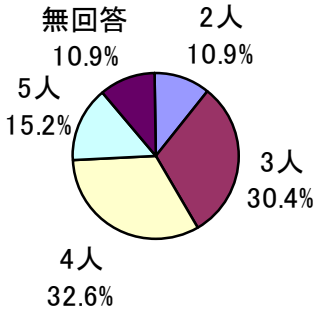
# 転居 回答者の属性④　回答者の年齢、同居人数

- 回答者の年齢（平成25年4月現在）は30代～40代が中心（91.1%）。
- 同居人数は3人～4人が6割を占める。

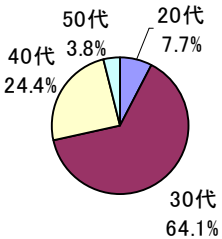
回答者の年齢（H25.4.1現在）n=44



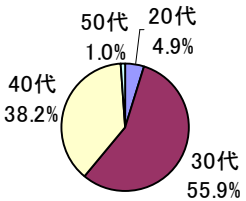

同居人数n=40




転入




転出

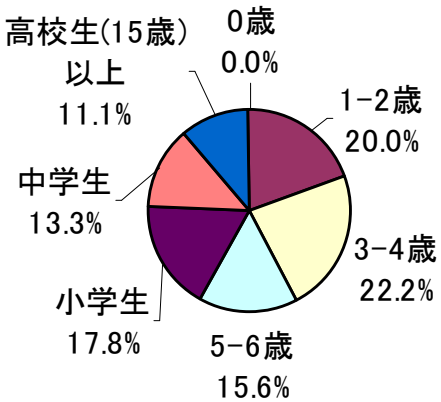



転入、転出より40代の占める割合が高い

# 転居 回答者の属性⑤　第1子の年齢

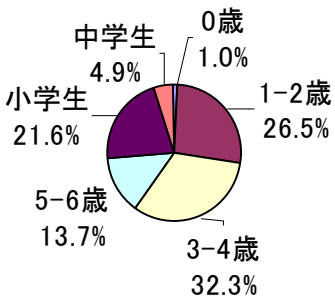
- 第1子の年齢は未就学児が5割を超え（57.8%）、3～4歳児が最も多い。高校生以上も1割程度あった。

第1子年齢（H25.4.1現在）n=45



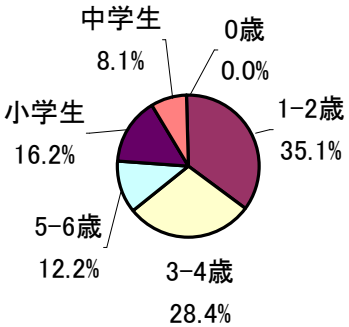

（市内間転居）
未就学児57.8%、小・中学生31.1%、
高校生以上11.1%

（参考：転出）第1子年齢（H25.4現在）n=102




（参考：転出）
未就学児73.5%、小・中学生26.5%、
高校生以上0%

（参考：転入）　第1子年齢（H25.4.2現在）n=74




（参考：転入）
未就学児75.7%、小・中学生24.3%、
高校生以上0%

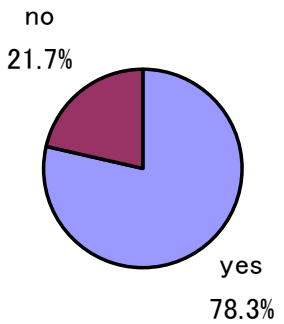
未就学児が過半数だが、転出、転入より年齢構成が高い。

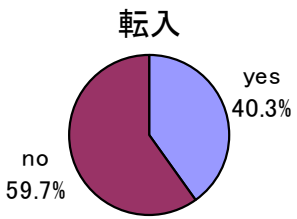
転居

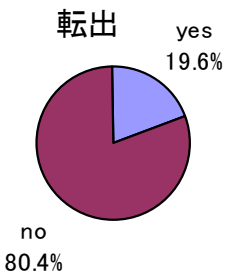
# 回答者の属性⑥　親の居住

- 市内に世帯主もしくは配偶者の親が住んでいる割合は8割近い。
- 市内在住の親は、世帯主側と配偶者側の割合に大差はない。

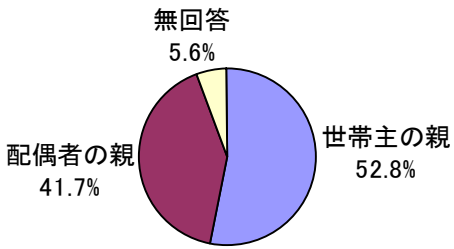
尼崎市内に世帯主・配偶者の親が居住しているかn=45




世帯主の親か配偶者の親かn=33

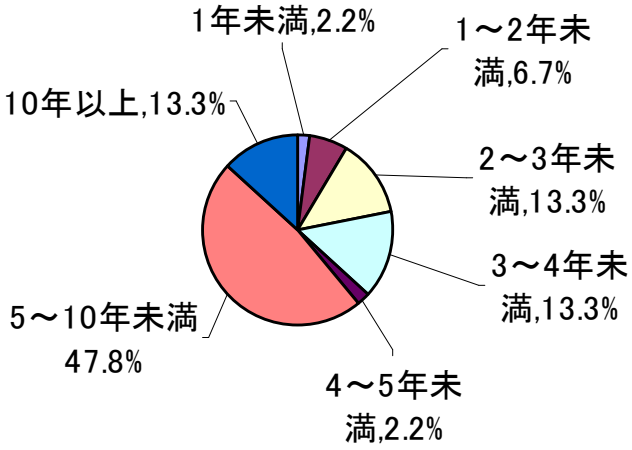


転居

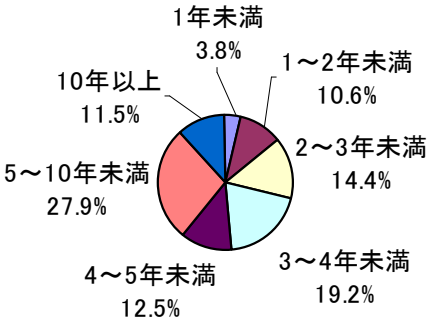
# 回答者の属性⑦　従前の住宅での居住期間

- 転居前の住宅での居住期間は5～10年が5割弱を占め、ついで2～3年、3～4年、10年以上がそれぞれ1/8となっている。

従前の住宅での居住期間n=45




（参考：転出）　家族をもってからの尼崎での居住年数



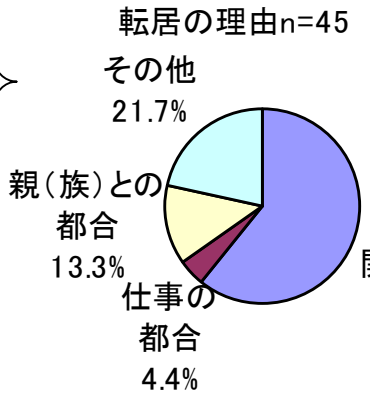

転居前の住宅での居住歴は5年以上が6割。

（参考：転出では、<u>家族をもってからの</u>居住年数は5年未満が6割）

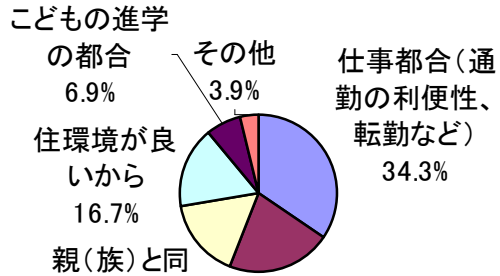
# 転居の理由

- 転居理由で最も多かったのは住宅に関することが最も多く（60%）、ついで親（族）との都合（13.3%）、仕事の都合（4.4%）が続く。

その他の内容
・子供の校区
・子供の入園に合わせて
・子供が産まれた
・保育園まで遠い
・生活保護の上限の為
・自転車・バイク盗難・治安が悪い
・市営住宅に当選した為
・家賃がもったいなく思ったので



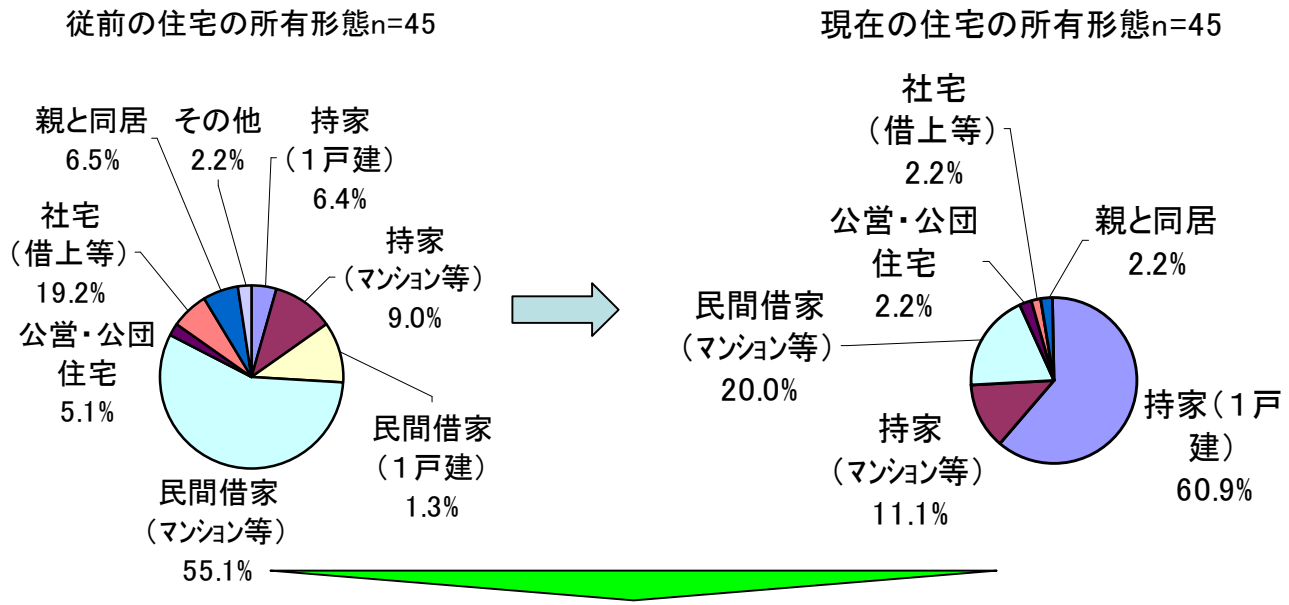

（参考）転居の最大の理由




市外転出と異なり、「住宅に関すること」が6割を占める。「仕事の都合」が圧倒的に少ない。

# 転居 住宅の所有形態（従前・従後）

- 転居前は民間借家が5割強を占め、ついで社宅が2割、持家（1戸建、マンション等）は2割弱。
- 転居後は、持家（1戸建、マンション）が7割を占める。



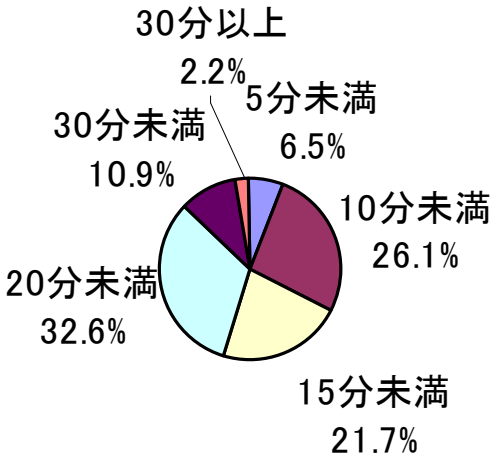

転居を機に住宅を購入しており（転出、転入と同傾向）、かつ転出、転入より持家所有者の割合が高い。

転居

# 現住宅から最寄駅までの徒歩時間

- 駅まで徒歩での時間は、15分未満（徒歩1km圏内）過半数を占める。

住宅から最寄駅まで徒歩時間n=45



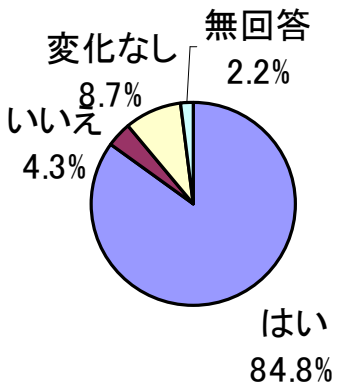

駅から1km圏内の住宅が選ばれている。

（転出、転入と同じ傾向）

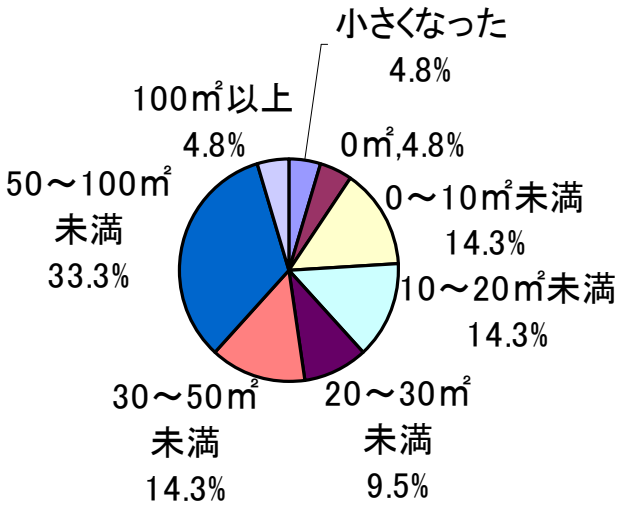
# 転居前後の住宅面積の変化

- ８割以上がより広い住宅に転居している。
- 転居前後の住宅面積の変化について回答があった者のうち、0～50㎡の増が5割強、50～100㎡の増が3割強、一部「小さくなった」世帯もあった。

転居後住宅は広くなったかn=44



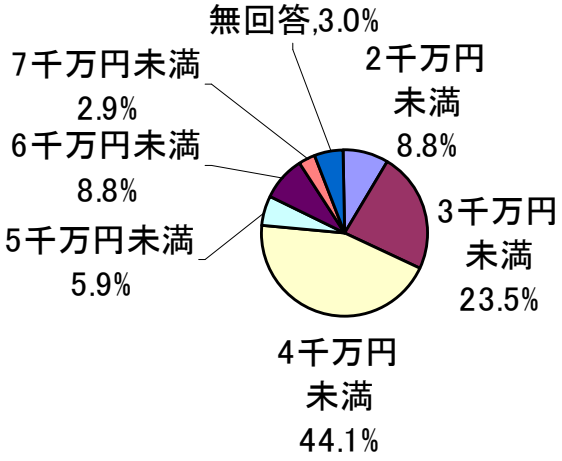

従前と従後の面積の変化n=21



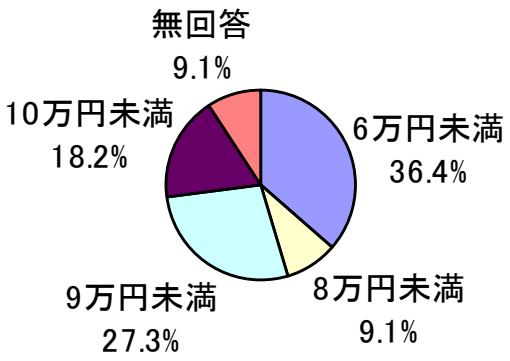
# 転居 住宅予算

- 持家では、３～４千万円が4割強と最も多く、ついで2～3千万円が2割強、２千万円未満、５～６千万円がそれぞれ約1割となっている。
- 賃家では、月額5～6万円が4割弱で最も多く、ついで8～9万円が3割弱、９～１０万円が2割弱と続く。

住宅予算（持家）n=32



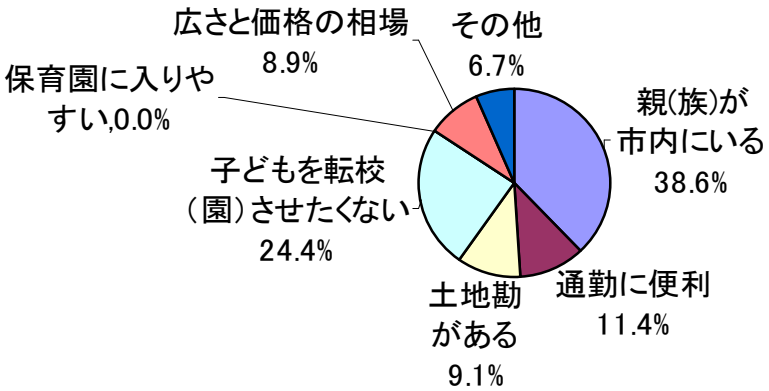

住宅予算（借家）（月額）n=10



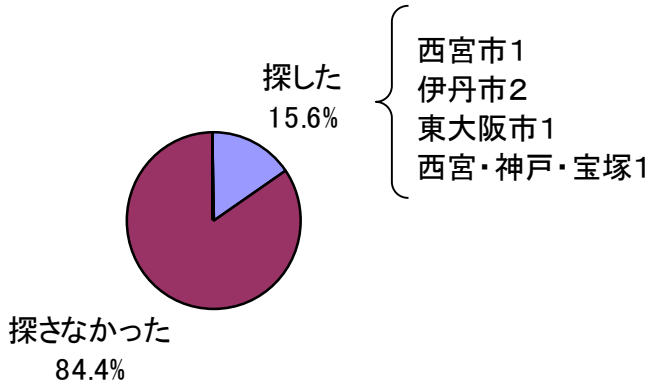
# 転居 尼崎市内に住むことを決めた理由、市外居住を考えたか

- 市内居住を決めた理由としては、「親（族）が市内にいる」が4割弱と最も多く、ついで「子どもを転校（園）させたくない」が3割弱と続き、「通勤に便利」、「土地勘がある」、「広さと価格の相場」がそれぞれ1割程度となっている。「保育所に入りやすい」は0であった。
- 市外居住を検討したのは2割以下であった。

尼崎市内に住むことを決めた最大の理由n=44



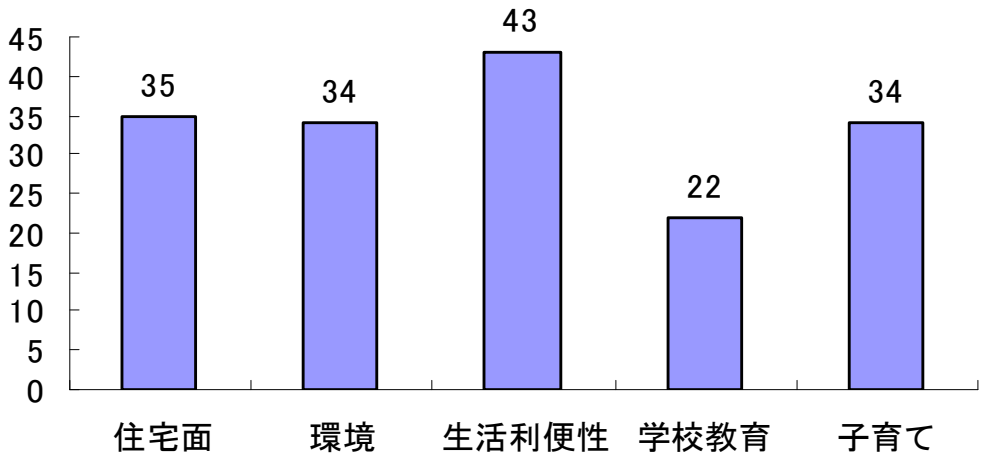

尼崎市以外の他都市でも住居を探したかn=44



# 転居 現在の住宅を選んだ理由（全体）

- 生活利便性が一番多く、住宅面、環境、子育てが続き、学校教育が一番少なかった。

「現在の住宅を選んだ具体的理由」で各設問で「特になし」を選択した者を除く世帯数n=45（複数回答）

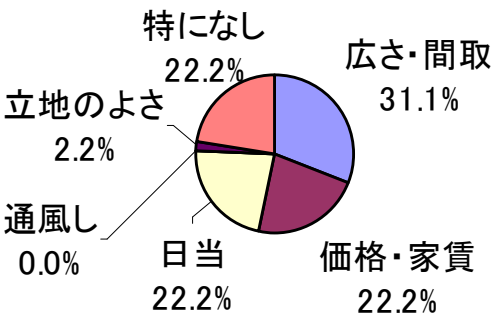



市内転入と同様、「生活利便性」が最も多い。「住宅」「子育て」「環境」も多いのは市外転出と異なる。

# 転居 現在の住宅を選んだ理由として「住宅面」に関する具体的理由

- 現在の住宅を選択した理由として「住宅面」に関しては「広さ・間取」が3割、ついで「価格・家賃」、「日当」、「特になし」がそれぞれ2割強と続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（住宅面）n=44



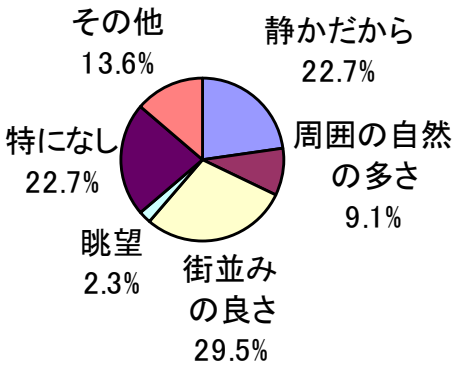

市内間転居者にとっては、「広さ・間取り」「価格・家賃」を満足させる住宅が市内に存在している。

# 転居 現在の住宅を選んだ理由として「環境」に関する具体的理由

- 現在の住宅を選んだ理由として環境に関しては「街並みの良さ」が3割弱で最多。「静かだから」、「特になし」、「周囲の自然の多さ」が続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（環境）n=44

その他の内容
・生まれ育った所だから
・実家が近い
・駅が近い
・便利さ
・住宅密集地からは1本外れている

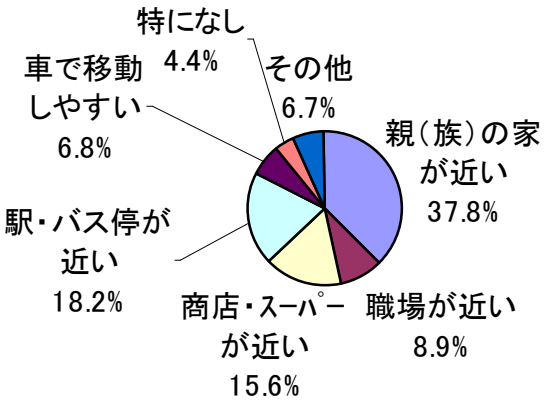



市外転出では尼崎を選ばなかった理由で「街並み」、「騒音・振動」が目立ったが、市内間転居は市内転入と同じく、「静かさ」、「街並みの良さ」が上位に選ばれている。

# 転居 現在の住宅を選んだ理由として「生活利便性」に関する具体的理由

- 現在の住宅を選んだ理由として生活利便性に関しては「親（族）が家が近い」が4割弱で最多。「駅・バス停が近い」、「商店・スーパーが近い」、「職場が近い」が続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（生活利便性）n=44

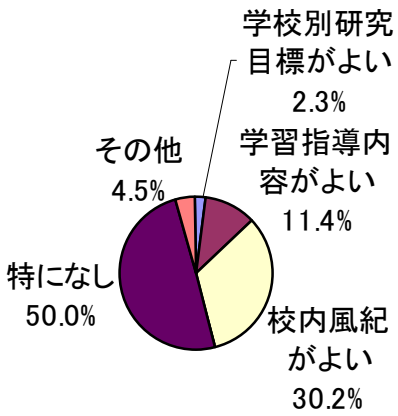



市内転入と同様に「親（族）の家が近い」が最も多い。

# 転居 現在の住宅を選んだ理由として「学校教育」に関する具体的理由

- 現在の住宅を選んだ理由として学校教育に関しては「特になし」が5割で最多。「校内風紀がよい」が3割、「学習指導内容がよい」1割と続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（学校教育）n=44

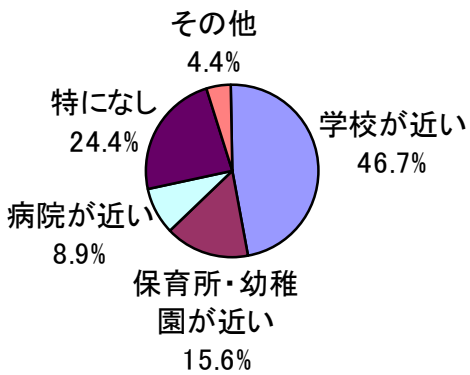



市外転出、市内転入yはともに「特になし」が最多。市外転出では「校内風紀」を尼崎を選ばなかった理由とした者が約2割いたが、市内間転居では3割が住宅を選んだ理由にしている。

# 転居 現在の住宅を選んだ理由として「子育て」に関する具体的理由

- 現在の住宅を選んだ理由として子育てに関しては、「学校が近い」が5割弱で最多。「特になし」が2割強、ついで「保育所・幼稚園が近い」、「病院が近い」が続く。

現在の住宅を選んだ具体的理由（子育て）n=43




学校、保育所・幼稚園、病院に近いことが住宅選択の優位にある

# 転居　単純集計の分析結果

- 転居前の住宅での居住歴は転出と比較して長い

- 本市のことをよく知れば、市内定住に繋がることを示唆しているのではないか

- 転居先は転入、転出と同様、駅に近い住宅が選ばれている。また学校、幼稚園・保育所が近いといった理由も見える。
- 転居先の住宅を選んだ理由は「生活利便性」が一番多い。
- 他校区への転居が6割を占めている。

- 市内間転居でも「より」利便性を考慮して転居している。その際校区も変更している。

- 8割を超える世帯が転居を機により広い住宅へ転居。

- 需要にあった住宅供給があれば、市内定住に繋がることを示しているのではないか。

- 市内居住を決めた理由は「親（族）の市内居住」がトップで、転居者の8割近くは、親が市内に居住（転入4割、転出2割弱）。また、「子どもを転校させたくない」、「通勤に便利」といった理由も挙がっており、8割以上は市外転出を検討していなかった。（転入では、4割強が他都市も検討）

- 親族の市内居住は8割もあり、インセンティブの有無に関わらず市内居住が考えられている。